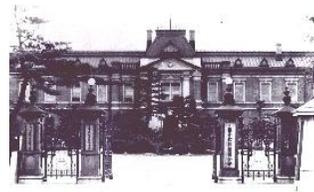
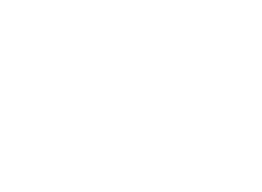


赤れんが博物館小企画展「記憶を刻む赤れんが：戦後 80 年と旧軍施設の変遷」 展示れんが使用建造物リスト① (竣工年順)

No	建物の概要	戦前	戦後～現在の用途
	旧名称 現名称 所在地	(戦前写真) 竣工年	戦後から現在の用途 戦後写真
1	旧 東京湾要塞猿島砲台 現 猿島公園 (国史跡 東京湾要塞跡 猿島砲台跡) 所在地:神奈川県横須賀市	1884(明治 17)年	幕末の 1847 年に幕府により国内初の台場(砲台)として築造され、明治中期以降東京湾要塞の一つとして整備されたが、旧式化した砲台は 1952(大正 14)年に陸軍から海軍に移管された。現在は猿島公園として整備され渡船が運航、猿島砲台跡は国史跡に指定されている。  <small>画像 Haragayato - Photo taken by Haragayato using a FinePix F30.and edited., CC 表示-継承 2.5. https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=2022914 による</small>
2	旧 海軍兵学校生徒館 現 海上自衛隊幹部候補生学校庁舎 所在地:広島県江田島市	1893(明治 26)年  <small>画像 森本茂 撮影『広島県史蹟名勝写真帖』教育公報社 昭和 10、国立国会図書館デジタルコレクション https://hdl.ndl.go.jp/id/1024473 より</small>	戦後、米軍・英連邦軍が進駐し、1956(昭和 31)年に返還され、その翌年、横須賀から海上自衛隊第 1 術科学校が移転し、のちに幹部候補生学校も開校し、幹部自衛官を教育する教室として使われている。  <small>画像 海上自衛隊幹部候補生学校庁舎 防衛省 (Ministry of Defense), CC 表示 4.0. https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=111322775 による</small>
3	旧 由良要塞友ヶ島第 2 砲台 現 友ヶ島第 2 砲台跡 (土木学会選奨土木遺産) 所在地:和歌山市	1898(明治 31)年	幕末以来、大阪湾を守る要塞として整備され、一般人の立入は禁止されていた。戦後は航路が開設され観光開発により観光地となっている。第 2・第 3 砲台跡は土木学会選奨土木遺産に選定されている。 
4	旧 呉鎮守府庁舎(2 代目) 現 海上自衛隊呉地方総監部第 1 庁舎 所在地:広島県呉市	1907(明治 40)年  <small>画像 森本茂 撮影『広島県史蹟名勝写真帖』教育公報社 昭和 10、国立国会図書館デジタルコレクション https://hdl.ndl.go.jp/id/1024473 より</small>	1945(昭和 20)年 7 月、米軍による呉空襲で被災、外壁を残し焼失するが、戦後進駐した英連邦軍が修理し使用。1956(同 31)年に返還され海上自衛隊呉地方総監部第 1 庁舎として利用されている。空襲で破壊された屋根ドームは 1999(平成 11)年に復元された。  <small>画像 海上自衛隊呉地方総監部第 1 庁舎_海上自衛隊, CC 表示 4.0. https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=138389601 による</small>
5	旧 第 16 師団司令部庁舎 現 聖母女学院法人本館 (国登録文化財 有形文化財建造物) 所在地:京都市	1908(明治 41)年  <small>画像 「未来へ紡ぐ深草の記憶から」J116-001、第十六師団司令部-第二次大戦中</small>	戦前には赤れんがが空襲時の目標とならないように壁面が黒く塗装されていた。聖母女学院が 1949(昭和 24)年に払い下げを受け本館として使用している。2016(平成 28)年、国登録文化財(有形文化財建造物)にも指定された。 

赤れんが博物館小企画展「記憶を刻む赤れんが：戦後 80 年と旧軍施設の変遷」 展示れんが使用建造物リスト②（竣工年順）

6	旧	近衛師団司令部庁舎	1910(明治 43)年		<p>終戦前夜 1945(昭和20)年8月14日から15日、将校らによるクーデターの舞台となった。1977(同52)年に東京国立近代美術館工芸館として開館したが、2020(令和 2)年工芸館(工芸館は金沢市へ移転)としての活動を終え現在は外観が公開されている。</p>	
	現	東京国立近代美術館 旧工芸館 (国指定 重要文化財) 所在地:東京都千代田区				
7	旧	金沢陸軍兵器支廠 第五、六、七号兵器庫	<p>第五号(第 3 棟) 1909(明治 42)年 第六号(第 2 棟) 1913(大正 2)年 第七号(第 1 棟) 1914(大正 3)年</p>		<p>戦後、1972(昭和47)年まで金沢美術工芸大学の校舎として利用されたが、保存・活用を目的として大規模な修復工事が行われ、1986(同61)年に石川県立歴史博物館として開館した。1990(平成2)年、3棟とも重要文化財に指定され、2015(同27)年にリニューアルオープンした。</p>	
	現	石川県立歴史博物館 第 3、2、1 棟 (愛称「いしかわ赤レンガミュージアム」) (国指定 重要文化財) 所在地:石川県金沢市				
8	旧	東京湾要塞 第二海堡	1914(大正 3)年		<p>明治から大正時代にかけて首都の防衛を目的として作られた人工要塞で、関東大震災後は海軍が水中聴音訓練や防空砲台に利用していた。終戦とともに軍事施設は処分され、現在の第二海堡は東京湾を行き交う船の安全を見守る施設となり、国土交通省により管理されている。</p>	
	現	第二海堡 (関東地方警備局所管) 所在地:千葉県富津市				
9	旧	広島陸軍兵器支廠 第11兵器庫	<p>1915(大正 4)年 1999(平成 11)年移転</p>		<p>広島陸軍兵器支廠にはかつてれんが造の兵器庫が17棟あり、現在の敷地は広島大学医学部、医学部付属病院、県警学校などが使用している。最後に残った11号館は、広島大学医学部医学資料館として使用されていたが 1999(平成11)年に解体、一部のれんが、石材などを利用し移築再建された。</p>	
	現	広島大学医学部医学資料館 所在地:広島市				
10	旧	海軍大湊通信隊稚内分遣隊幕別送信所	1931(昭和 6)年頃		<p>太平洋戦争開戦時の暗号電報「新高山、登レーニ〇八」の中継など、最北の重要無線基地であった。戦後、1962(昭和37)年まで米軍が駐留、2006(平成18)年に国より稚内市が譲渡を受け、現在は委託を受けた市民団体が運営、「稚内赤れんが通信所」として補修や維持活動を担っている。</p>	
	現	旧海軍大湊通信隊稚内分遣隊幕別送信所 C 棟 (通称「稚内赤れんが通信所」) (稚内市所管) 所在地:北海道稚内市				